

引き続き、市政一般質問を行います。17番、作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） 昼過ぎの一番眠い時間に当たってしまいました。辛抱して聞いてください。新政会の作元でございます。今朝方、大阪市内で発生いたしました地震の被災者の皆様方に心からお見舞いを申し上げます。

国境離島新法が施行されて1年が過ぎました。それぞれに成果も少しずつ見えてきているのではないかと思います。この法案は10年の議員立法であるため、その成果や国境離島の活性化に大きく左右されかねません。

各離島が知恵を絞って島の活性化にどのように生かすか、真剣に取り組んでいる状況が見えています。対馬市においても、その影響の一端ではないかと思われる人口の減少の動向、市長の行政報告にもありました社会減が、28年度は401名から29年度は181名というふうになっております。またUIターン者が29名など、成果のあらわれではないかと思われます。今後、各部門での進展を期待していきたいと思っております。

それでは、今回通告をしております一般質問に入らせていただきます。私は今回、大きく2点質問をいたします。

1点目は対馬の将来の観光について、これちょっと表題が大きいですが、この中身を3点ほど質問をいたします。

2点目は、対馬の山の生態系が非常に危ぶまれております。これは誰もが思っていることだと思いますけれども、ツシマジカの対策についてでございます。

まず、対馬の観光については1点お礼を申し上げておきます。それは大きな観光看板の設置を2個していただいております。あそうベイパークの入り口と、そして和多都美神社の入り口、和板ですね、非常にすばらしい看板で、これを見ただけで対馬はいいなあと思う人がいるのではないかなというふうに思っております。観光に来る人やボランティアで活躍してくれる人たちの中からも好評をいただいていると思っております。まだまだ必要箇所があると思われま。結構お金もかかるんじゃないかなと思っているんですけど、ぜひあと何個か追加をしてこれを設置をしていただきたいなというふうに思います。

さて、観光事業全般ですけれども、韓国人観光客の動向、そしてまた消費額も合わせて、日本人観光客の動向も合わせてお尋ねをいたします。

また、市長も就任されて折り返し点に向かっておりますが、自分の思い描かれている観光事業の推進状況またはそのビジョンと実態について、どのように分析をしておられるかお尋ねをいたします。

次に、2点目かな、浅茅湾観光について、市営の渡海船うみさちひこが今運行されておりますけれども、浅茅湾クルーズ船の運行をもっともっと伸ばしていくために、浅茅湾周辺周遊コース

の見直しを将来図っていくべきであると考えます。

その周遊コースの組み立てをする中で、どうしても通さなければならない航路があります。市長も御承知のことと思いますけれども、濃部浅茅を過ぎたところに狭瀬戸があります。万関橋方面へ抜けるところに、3月の大潮時には水深が1メートルのところがありますが、非常に航行が難しいところであります。

真珠養殖業、漁協との兼ね合いもありますが、よく協議を重ねながらしゅんせつの方法で計画を立てていただければ、将来の浅茅湾観光と渡海船の欠航防止に大きく役立っていくと思われませんがどうでしょうか。

2点目は、あそうベイパークの開発と100年の森構想のバックアップについて。この問題については、1回私も質問をいたしておりますが、15年かけて2万5,000本のゲンカイツツジが植栽をされております。今85名のボランティアの皆さん、有志の皆さんが、精力的に活動で見事なつつじの森が形成されております。

もっともっと広くてきれいな森づくりを手がけていただいておりますが、今回は公園の中の散策路の中に、散策路がずっと灯台まであるんですけども、その中で峠の駐車場から上ったところに谷があってもう一つ尾根がきます。その尾根伝いに海岸沿いまで遊歩道の建設はできないか。これができれば、もっと先に行って階段を下って上ってくることなくして、そのゲンカイツツジを見ながら散策ができるコースができるというふうに思っております。

このあそうベイパークの100年の森構想は、公園全体計画の作成をするべきだと思います。国道の入り口から海岸の灯台のあるところまで、全体で約60ヘクタールあるということですが、広報つしま4月号大きく紹介をされております。100年の森なので、夢を実現するために市長の考えを伺います。

公園全体の計画を作成しないと、自然公園法に引っかかって木の伐採も何もできない、部分的にあそこをやる、ここやるじゃだめだということで計画をつくって、今年はこちらをやる、来年はここを伐採する、抜き打ちですけどもね。そういったことをやるために計画を早くつくるべきだと思います。

次に大きな2点目ですけども、ツシマジカの対策についてでございます。これは市長に限らず誰も今実感をしていると思う。今のツシマジカ、どこもかもツシマジカだらけですよ。特に田舎道を夜走ると、20頭も30頭もこれは公園じゃないかというほど見られます。それだけ山の生態系が壊されてしまっています。

今、3万9,200頭という数を聞いてさらに驚いているところですけども、どうすればいいでしょうか。これは私もどうしていいやわかりませんよ。皆さんもそうだと思いますね。3万9,000も4万もおるシカをどうして退治すればいいのか。でもそれに手がけていかないと来

年は4万5,000になる、再来年は5万になる。こういったことになるとシカで対馬の山は全滅します。だめになる。

海はマグロの捕獲禁止で生態系が狂ってきました。イカもとれなくなった。山はシカとイノシシで壊される。また草が生えない、災害も発生しやすい、プランクトンは海に流れ出ない、これで藻場の造成も難しい。また真珠養殖の活性化もプランクトンの流れ込みがなければ、非常に影響を与えています。

どのようにすればいいかわかりませんが、国や県によく相談をして、市だけでは僕は無理だと思いますこの対策は。急がなければいけないと思いますので、どのように考えておられるか、またどうすればいいと思うか、答弁をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 作元議員の質問にお答えいたします。

まずこの対馬の観光についてでございますけども、観光事業の振興につきましては、市の政策の指針となります第2次対馬市総合計画に基づき、観光客の誘致による活性化を図っていかうとしているところでありまして、情報発信の強化、受け入れ態勢の整備強化に取り組んでいるところでございます。

また、その総合計画に位置づけられている関係計画を具体的に進めていくために、平成28年度からの5カ年計画といたしまして、対馬市観光振興推進計画を策定し、対馬型観光まちづくり産業を目指し、観光消費額の増額や観光客の増加を目指しているところであります。

さらに、対馬北部の振興策としては、平成25年度に観光リゾートイメージ図を策定するとともに、中対馬の振興策といたしましては、現在中対馬未来づくりアクションプランを策定し、各地区における具体的な取り組みを計画しているところでございます。

このような各種観光振興施策に基づき、現在対馬の海の玄関口であります比田勝港や厳原港の港湾整備、ターミナル施設の整備やトレッキングルートの整備などの基盤整備、受け入れ体制の整備、認知度向上のための情報発信にかかる取り組みを行ってまいりました。これらの取り組みにより、平成29年の韓国人観光客は約35万6,000人と、前年に比較いたしますと137%と急激に伸びたところでございます。

一方、国内からの客数は、飛行機、船の利用客から推計し約18万人程度で、横ばいの状況でございます。国内からの観光客に対しましては、対馬の魅力であります自然や歴史、文化を生かした情報発信を強化したり、コンベンション誘致に力を入れているところでございます。

昨年施行されました有人国境離島法により、滞在型観光の促進にも取り組んでいるところでございますが、今年度からは対馬振興局とプロジェクトチームを設置し、旅行商品造成に関する旅行会社に対する支援や観光資源の掘り起こし、体験メニューの開発、企画乗船券、搭乗券制度の

構築による運賃の低廉化による対馬に訪れやすい環境の整備、雨の日対策の検討等に取り組んでいくよう計画をしているところでございます。

2点目の浅茅湾の狭瀬戸のしゅんせつと観光のあり方についてでございますけれども、現在は複雑な入り江に富む浅茅湾を中心に、真珠母貝及びヒオウギガイ等の貝類養殖とクロマグロ等を対象とした魚類養殖が営まれております。

浅茅湾の中心部に位置する狭瀬戸は、名前のとおり狭く浅い瀬戸のために、真珠養殖漁船等の小型漁船と遊漁船は満潮時の航行に限定され、かつ慎重な運転が必要とされています。

また渡海船においては、現在若干波が荒い外海を通る航路となっており、晴れの天気であっても北西風が強くなると定期便、周遊観光ともに欠航が多くなっている現状であります。

狭瀬戸のしゅんせつを行うことにより潮流が増し、海中海底の環境の改善が見込まれるとともに、養殖漁船の航行も可能となり、漁場までの移動時間短縮と燃料費等の軽減により一次産業の活性化につながるものと思われまます。

また渡海船につきましても、浅茅湾周遊観光に対応すべく形状となっており、観光利用が可能な時間を利用した観光航路のルート見直しと、東海岸への新規航路の検討を行い、西ルート、東ルートに浅茅湾ルートを合わせることにより、複雑な入り江が美しいリアス式海岸と、春にはゲンカイツツジが湾内をピンク色に染め、夏には日本では対馬しか見られないハクウンキスゲなどを船窓から眺めることが可能となります。

この豊富なラインアップの検討により利用客の増大が図られ、観光産業の振興につながるものと思われまます。

さらに、定期便についても寄港地を検討することにより、時化の場合でも欠航することなく運行することが可能となり、就航率の改善と運行時間の短縮、燃料費の軽減などの効果が見込まれます。

しかしながら、膨大な事業費が考えられますので、今後国や県との連携を図りながら、離島振興法や地方創生を初めとして関連する各種制度を模索しながら、中対馬未来づくりアクションプランをもとにいろいろな課題を整理しながら、目標を立てて進めてまいりたいと考えております。

3点目のあそうベイパーク、つつじの森の開発についてでございますけれども、つつじの森につきましては、平成15年から19年に花の対馬ネットワークグループと美津島町がタイアップして、玄海つつじ、椿育成事業で約2万本の植栽を行いました。

その後、ボランティア団体玄海つつじの森つくろう会が継承し、草刈りやつる切り、支障木伐採作業等の育樹作業、またシカの食害による枯損木の補植作業をボランティアで取り組んでいただき、大変感謝しているところでございます。その成果が実りことしの春は見事な花が開花し、園を訪れた皆さんが一様に感激しておりました。また、福岡対馬会の皆様も御来園いただき、満

開のゲンカイツツジを堪能していただきました。

ツツジも大きいものは植栽後10年以上の成木となり、見事な花を咲かせるようになりましたが、園内には散策道が尾根筋と海岸側の2本しかなく、園内を十分に散策することができない状況であります。今後は玄海つつじの森つくろう会や関係機関と現地調査を行い、場所や広報等を協議してまいりたいと考えております。

次に、遊歩道の支障木の伐採の件でございますが、現地調査を行い、確かにつつじの森を過ぎた風車兼展望台付近から終点までは樹冠が大きくなり、薄暗く周りの景色を楽しむことが難しい状況であります。

しかし、この付近は数年前にツシマヤマネコの生息が確認された地域であり、また国定公園2種地域でありますので大規模な伐採は難しいかと思われまます。今後関係機関と協議していきたいというふうに考えております。

また展望台につきましては、老朽化による傷みが激しく危険な状態であります。またアスレチックゾーンの遊具も老朽化が激しいので、全体の遊具を計画的に改修してまいりたいと考えております。

あそうベイパークは、多目的広場、キャンプ場、玄海つつじの森、桜並木、対州馬放牧場、アスレチックゾーン等多種多様な公園であり、また地理的にも対馬の中央に位置しており、今後市民の憩いの場はもちろん、観光客を取り込める総合公園として位置づけ、整備を計画的に進めてまいりたいと考えております。

最後に、ツシマジカ対策についてでございますけれども、本市のシカによる被害は農作物被害を初め山間部でのスギ、ヒノキの樹皮剥ぎや下層植物の食害など、山林の生態系被害にまで及んでおります。

この対策といたしまして、農地等への侵入を防ぐための防護柵の設置、わな、銃による捕獲対策を実施しており、捕獲頭数は年々増加し、昨年度は過去最大の5,365頭を捕獲しておりますけれども、山間部での被害については一向に回復傾向にないのが現状であります。

平成29年度から、市の単独事業として山間部での一斉捕獲を実施し、県においても平成28年度から対馬でのシカ捕獲事業を実施しております。今年度についても、県による捕獲事業、市での一斉捕獲を継続して実施し、新たに有害鳥獣対策協議会においても一斉捕獲を実施する予定としております。

実施地区につきましては、現状調査を行い選定する予定としております。

なお、このシカの被害の対策につきましては、先ほども作元議員おっしゃられたように今の生息予想頭数3万9,000たしか200頭だったと思いますけれども、これを減らすためには毎年9,000頭は捕獲していかなければならないというようなデータがございます。

なかなかこの9,000頭にはまだ届いておりませんが、先ほども申しましたように一斉捕獲とほかの方法をいろいろと考えた上で、これらに向けて努力してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） ありがとうございます。1点ずつ、簡単に質問をしてまいりたいと思います。

1点目の観光の動向ということにつきましては、5番議員も通告されておりましたので、韓国人の観光客については減ることはないというふうに先ほども市長答弁しておりましたけれども、問題は日本人の観光客の皆さんをどういうふうに受け入れていくか、どういうふうに対馬に引っ張っていくか、ここに問題というか今からの対馬の発展が目指されていくことになるだろうというふうに思いますので、振興局とも相談をされながらぜひその方向で進めてください。

2点目の渡海船うみさちひこのその狭瀬戸の問題ですけれども、これは非常に市長も言われたように結構な予算がかかるだろうというふうに私も思っております。でも、これもやっぱり手がけていかないと、観光客を呼び込むための大きな手段としてこれから使いものになっていくのかなというふうに思っておりますから、今狭瀬戸は通らずに四十八谷を通って鋸割を通って万関のほうに行くこのルートしかない。これじゃ時化たときには観光船は出されません。

そういったことの解消するためにも、30メートルの幅で、私も行って水深計ってみましたけれども、干潮時には1メートルしかないのね一番狭いところで。だから、これをやっぱり水深2メートルにもっていかないとなかなか航行も難しいかなと思いますけれども、全長300メートルの幅30メートル、そして水深が2メートルこれだけの掘削をしていけば、結構見通しもいいところですので向こうから船が来ても離合はできると。これはもう100トンも200トンもある船は通らぬので、せめて19トン型ぐらいまで。

ですから、ここら辺はしっかりと補助金を見つけて国と県に相談をして、対馬の観光の僕は目玉になっていくだろうと将来、思っておりますから、ぜひこの辺の掘削をお願いをしていきたいというふうに思います。

それと、ゲンカイツツジやハクウンキスゲがその船から見れる、このコースはここしかないと思います。ハクウンキスゲは鋸割のあの岸壁付近にしか今ないんですもう。これもシカが食ってしまって荒らしてしまって、シカの行けないところにしかこのハクウンキスゲはありません。あるのはここと綱島、綱島のゴリラ岩にあります。あとはもう、私の志多浦とか小綱とかそういったところにも、豆殿崎にもいっぱいあったんですけども今もうそれはない。

だから、このゲンカイツツジもそうですけれども、このハクウンキスゲの植栽もやはりボラン

ティアの皆さんにお願いをして、苗がいっぱいつくってあるところも見ておりますから、これもやはり対馬にしかないんですよこれ。韓国からの渡ってきた花ですから。こういったものもぜひ観光の中の、3、4月と7、8月、7月がこのハクウンキスゲですから、これもやはり手がけていく必要があるのかなと。観光ルートの中に、ぜひこれもボランティアの皆さんと相談してみてください。

そして、鋸割を行ったところに金田城跡がありますね。あそこののぼり立てのところにダンギクがいっぱいあったんですね。ダンギク、これ秋ですよだから。9月、10月。ダンギクも恐らくシカにやられてしまうんじゃないかな。結構なダンギクがありましたよ。

だから、こういったのもやはり食われてないように、食われてしまわないように。もう食われてしまったら再生は非常に難しい。だから、これも対馬独特の花ですからね。やっぱり観光に役立てるためにはダンギク、ゲンカイツツジ、ミツバツツジ、それからハクウンキスゲ、こういったものをしっかり大事に、こういった花を愛する皆さん方と相談をされて、植栽もまた心がけていただければなというふうに思います。この狭瀬戸の問題について、大体年度は難しいと思うけど、どういう方法でやりたいなと思います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この狭瀬戸につきましては、中対馬振興部のほうの職員のほうは早速簡単な測量をしてくれておまして、今現在マイナス2メートルまでのしゅんせつをするといったことでの概算事業費をはじきましたら、約3億ちょっとかかるというような、概算事業費を算出しているところでございます。3億もかかるということで、一般の港湾やら漁港と違ってどこからその予算を引っ張ってくるかということは、ちょっとなかなかすぐには難しいかなと思います。

そういうことで、今後いろんな補助金システム等にも注視しながら、どこからかこの補助金をまず引っ張ってくることを研究してみたいなというふうに思っているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） 3億ということはなかなか難しい金額ですけども、やはりやっしまえば元は取れますよ。だから、これは積極的にやはり陳情したり要望したり、そして補助金をいろんなものあさってつくり上げてほしい、ぜひ今比田勝市長のうちにこれやったらいいみやげになりますからね、ぜひやってくださいね。これお願いしときます。

それから、次はあそうベイパーク、広報の4月号に、ここに持ってきましたけど、4ページぐらいにわたってこのあそうベイパークが紹介されてあります。僕も2、3回この3月に行きましたけど、本当にことはよく咲いていましたね。

そして、そのときに何人かで回ったときに、先に行く、そして階段をおりてまた昇ってくる、

あのルートからこう来たんですけどね、その一番最初上ったときのあずまやがあるところの次がヒノキダニというところなんですけど、これ谷があってね。そこはずっと木も結構切られて、伐採されて見晴らしがよくなっていました。

それで、その次の山の頂上に、その尾根に散策道を1本つけれないか、そうするとその階段のところまで行かなくてもそこからおりればまた駐車場に戻ってこれる。結構な花を見ることもできるということなんです。これは、だから3億もかけるような道じゃないでいいので簡単にできると思うんですよやろうと思えば。これはどうですか、考えていただけませんか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 実は私も、昨年も行きましたけどことしもまたこの公園には行って、かなりのツツジが昨年よりもことしのほうがよく咲いていたように思いました。

そういうことで、今議員のほうからも話がありましたように、もう少し中を通れるような散策道があればいいなというふうに私自身も感じておりますので、また関係者の皆様とどういう形で散策道を通せるかをいろいろと協議してまいりたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） ぜひ、やっぱりああいって人工の公園ですけども、なかなか10年も15年もかけてつくるのは難しい。これもう既にでき上がりつつありますよあの公園は。だからそれを、市長ヤマネコのカメラが設置されたり、灯台のほう側のあの森の中です。暗いところ、ヤマネコは暗いとこしかおらんとかね。あそこは、僕が前回の質問でも言いましたが、灯台におりていく道あそこの両脇は暗いんですよ。

だから、全部切る必要はない。大きな気があるやつを何本ずつか切っていけば海が見えるようになります。そして、やっぱりあそこを散策するのに暗すぎたら危ない。そして言われたように、アスレチックみたいな建物も美津島時代に作ったものじゃないですかあれ。もうロープも何もちぎれ落ちよるし、あれもできれば、あの公園を生かすためにはあれもつくりかえて、子供たちを連れて行ってあそこで遊べるようにする、こういったのがあそこの開発が一番大事になってくるのかなというふうに思います。

そして、先ほども言いましたが60ヘクタールあるみたいですね。今看板が立つと、きれいな看板があるあそこから入って左側へ上ったら、昔噴水みたいなのがあった公園がある。あそこからショウブ園があるところ、そして何かグラウンドゴルフができる公園がありますね。そして駐車場があって馬がおって、左上って回れる道がある。こういったところをやっぱり何年かの計画書つくったらどうですか。今度はここをやる、今度はここやる今度はここやる、そのときそのときに知事のほうにも自然法に触れるところの伐採を何本でいいから切らせてくれんかというようなことにしたらどうでしょうかね。そういうふうな計画する気持ちありますか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 計画としてはそういった計画をつくっていきたいというふうに思っておりますけれども、ただこれまでもやはり国定公園の第2種の特別区域であるというところが引っかかって、いろいろと協議が進んでいないところがあるというふうに聞いているところでございますので、今議員おっしゃられるようにもう少し具体的な計画を示しながらこれを進めてまいりたいというふうに考えます。

○議長（小川 廣康君） 作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） 自然法に引っかかる場所ですから、非常に開発が難しいなというふうには思いますので、市だけではなくて振興局も中に入れて、対馬市の一大公園づくりのために力を貸してくれんかというふうに振興局も引っ張り込んで、その中で計画をつくってそして進めていけば、伐採もああこれはせないけん、振興局が言えば知事もそらせないけんなど言うでしょうが。

だから、そういった関係機関も巻き込んで計画をつくらないと、市だけつくってもまた県に行かないかんということになりますので、ぜひ振興局も交えたり観光物産協会も入れたりしながら計画を立てていただければなあというふうに思います。

そして、1点これも喜ばれたことなんですけれども、このあそびパークの伐採の費用、今年度90万円つけていただいておりますよ。大変喜んでおられます。これで2回下刈りができるんだと。年に2回下刈りをしないと草ぼうぼうになってしまうという話でした。

やはりこれもみんなボランティアの人たちが来て、草刈りを持ってきてちゃんとやっていただいておりますから、できればそういった90万円も100万円にしてもらってね、喜んで働いていただけるように。別にこの人たち弁当を買うわけでも何でもないので、ボランティアでちゃんと伐採していただいておりますので、これはぜひそういうふうに市のほうからも100万か幾らか知りませんが、予算の中から捻出をされて立派な公園のためにぜひしていただきたいというふうに思います。やれそうですか。本当、やれる。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私もボランティアグループの方たちとは数回話もさせていただいておりますし、これまでの御苦勞に対して大変感謝しているところでございますので、そういった予算的な面でももう少し必要だということであれば、ちょっとそこはまた前向きにいろいろと検討してみたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） ぜひそういったボランティアの方々と相談をされて、喜んで働いていただけるようにぜひ力を出していただければというふうに思います。

それでは、3点目のシカの問題。これは非常に難しい問題なんですよ、実は僕も。本当に、これ言うてできるかできんかよくわからなかったんですけど、やっぱり今の現状を考えるといつか誰か言うてせな、このシカは対馬からいなくなりませんよね。

だから今、奈良公園とか宮島とかこういったところにはシカが放し飼いされていますが、こういったところはふえないようにちゃんと数を制限して、あれ養うとるちゃろうね、いつ行っても大層はふえていないから、ああいったところみたいに対馬で生息可能な頭数は3,000から4,000でしょう、この対馬の山を全部考えた場合。それが10倍もおるんですから、そらたまったもんじゃないですよ。

だから山に行く人、これはハチミツをとる人から聞いたんですけど、蜂洞を据えに行くのに麓までは長靴を履いて行かないかんだって。山の中を登っていくのにはサンダルでいいそうです。サンダル、つかけて行けるて。草がない。木と木の間には全然下草がない、いう話でした。

だから、下から見たら山のとっぺんが見えるぐらい下草はない、それだけもうシカが食ってるんですよね。そら4万もおったら食うでしょうよ。特に人影の少ない集落付近はもうシカの群れでいっぱい。だからどういうふうに捕獲をすればいいか、西村部長ともちょっと話しましたが、西村部長一人が撃って回ったって大したことはできない。だからどういう方法でやるのか、県や国のそういった機関にも相談されてみてはどうですか。

そして私はどこかに、去年かおととしか権現山で大敷網みたいにして撮ったことがあるやないですか。そういったふうに区域を決めて追い込んで、そして立ち入り禁止にして殺していかな、9,000頭も一度にとれんよ。だから、箇所を決めて、ことしはここをやるよ、来年はここやる、ずっとそういうふうにして減らしていくしか方法はないんじゃないかなというふうに思いますので、どういうふうな方法を考えておるか、市長でも部長でもいいですけどどうぞ。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） このシカ被害対策、そしてまたイノシシの被害対策につきましては、私たちが大変頭の痛いところでございます。まして、まずシカの場合は今全島に約3万9,200頭ぐらいのシカが生息をしているというようなことで、先ほど議員のほうからも若干話の中にもありましたように、環境に影響を与えない適正な頭数は対馬では3,000頭だったというふうに私も記憶しております。

そういう中で、じゃあこの3,000頭にするためにはあと3万6,000頭のシカをどのように駆除していくかということでございますけども、ただ言うようにわなとか銃とかそういうことだけではなかなか難しいというようなことで、私自身も大学の先生やら環境省の方たちと話をさせていただいたことがあるんですけども、先ほど議員のほうからも話がありましたようにホルモン剤あたりを研究して、シカがそれこそこれ以上ふえないように不妊処置、そういったことがで

きるような薬はないですかといった話をしたことがあります。

そしたらそのときの先生が、それは可能ではあるやろうけどほかの動物にも影響を与えるようなことがあっちゃならんと。特に対馬はツシヤマネコがおりますからですね、そういうところもあってなかなか難しいとがありますねというような話をされたことがあります。

あと、ちょっと私のほうよりも部長のほうがいろいろとまたこのことについては今現在やっておりますので、部長のほうに答えてもらいます。

○議長（小川 廣康君） 農林水産部長、西村圭司君。

○農林水産部長（西村 圭司君） シカ対策の取り組みとしましては、シカはふえている状況でございますので、27年度に長崎県が生息調査をしております。その中で生息密度の高いところから一斉捕獲に取り組もうということで、29年度は試行的に志多留の田ノ浜地区で行っております。

これ1カ所ですけど、30年度からはこれを4カ所、5カ所にふやしていきます。これを継続的にずっと続けていって、何とかシカの対策にならないかということで今検討させていただいているところでございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） 4カ所5カ所やって、なるべく早く3,000頭から4,000頭に近づけるように、島が山が森が活性化できるように対策をねっていただきたいというふうに思います。

1966年に天然記念物に指定をされている。そして2006年には指定は解除された。2006年から今までの間にこれだけふえとるわけですからね。5年かかっても10年かかってもいいから、ぜひ3,000、4,000に近づけるような捕獲方法を考えて、これ国が指定したんですから国にもよく相談して何とかしてくれんかというふうにしてぜひ、捕獲を早めるように。今部長の4カ所と言いましたけど、5カ所6カ所にふやしながら、ぜひ早く元の対馬の山に戻れるようにしていただきたいというふうに思います。

以上で通告をしておりました件については終わりますけれども、先ほどちょっと坂本議員からもちょうと漁獲の話が出ましたけれども、これ通告外で市長答弁は要りませんが、沿岸クロマグロの漁民共同行動というのが25日に東京で開かれるようになっております。

これに対馬からも何名かな、20名ぐらいいくんじゃないでしょうかね。そういった動きが今あっております。これは、やっぱり漁民とすると背に腹はかえられんということで、水産庁に行ってもすぐ門前払いくらいですよねこの件については。世界の問題だと、日本だけじゃないよということで門前払いをくらいますけれども、実際にこれをとって飯を食ってる人たちは大変な問題なんですよ。だから、そういったことを市長に申し上げて私の質問は終わります。ありが

とうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、作元義文君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩をします。再開を3時ちょうどといたします。

午後2時50分休憩

午後2時59分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 皆さん、こんにちは。5番議員、会派對馬の小島徳重でございます。一般質問に入ります前に、時の話題について1つだけ触れさせていただきます。

小網観音寺所蔵の観世音菩薩坐像の返還要求について、3月定例会において一般質問をさせていただきました。この件について、15日韓国の大田高裁が所有を主張する浮石寺に、韓国のお寺ですね、菩薩坐像を対馬に返還したらどうかと提案したとの報道がなされています。大田高裁の判断が今後どう具体化し、仏像が対馬に無事返ってくることを願うものです。もし市長のコメントがあれば後でもお聞かせください。

それでは、通告に従い3項目、5点お尋ねします。

1項目めとして、厳原港接岸中の韓国高速船による環境悪化についてお尋ねします。この件については3月定例会でもお尋ねしましたが、海洋汚染については事実関係の確認を初め不明な点がありましたので、再度この海洋汚染に絞ってお尋ねをいたします。

1点目は、平成26年度以降、韓国からの定期高速客船が厳原港に停泊中、電源を確保するため補助エンジンを稼働させ放しで海洋汚染を引き起こした事実はないかお尋ねします。

2点目は、このことに関して韓国高速船の陸電使用の実態についてお尋ねします。平成30年4月10日以降、韓国高速船は陸電施設を利用する意向が確認できたと対馬振興局建設部長が新聞紙上で表明されていますが、各高速船が陸電施設を使用しているか否か確認できているかどうかお尋ねします。

2項目めとして、日本人観光客の誘客による観光産業の活性化についてお尋ねします。これは、先ほど作元議員さんの質問と重なるところがあるかと思いますが、少し焦点を絞った点で2点ほど伺いたいと思います。

1点目として、平成29年度長崎県しま旅滞在促進事業における対馬の実績をどのように評価しているか、市長の見解を求めます。

2点目として、観光振興の推進体制にかかる仮称対馬市観光振興推進協議会の取り組みについ